



発行所 長岡鉄工業青年研究会

発行責任者 安 藤 学

編集責任者 難 波 博 繁

 編集者 市川 光・小川 友幸
 玲・市川 光・小川 友幸
 孝・佐藤 大樹・関根 良輔
 幸・山本 友紀・吉原 範
 英・倉品 英行

 事務局 新潟県長岡市坂之上町2丁目1番1号
 長岡商工会議所ビル5F
 長岡鉄工業青年研究会
 TEL 0258-36-6982

印刷所 ㈱北越時報社 長岡市住吉2丁目5番13号

新年度を迎えて

 長岡鉄工業青年研究会
 平成二十六年年度会長 永井 邦幸


平成二十六年年度長岡鉄工業青年研究会会長の務めさせて頂くこととなりました株式会社プレテック・エヌの永井邦幸です。一年間、

宜しくお願い申し上げます。四十有余年に渡る長く輝かしい歴史を有する当研究会の会長ということで、身の引き締まる思いが致します。

さて、昨年を振り返りますと、九月には宇宙開発をリードすべく開発された国産ロケット「イプシロン」の打ち上げが成功し、十二月には、二十二年に開催が予定されるオリンピック・パラリンピックの招致に成功する等、明るい兆しのあるニュースが紙面を飾りました。また一昨年末の政権交代に伴う、長期に渡るデフレと景気低迷からの脱却を図る経済政策「三本の矢」と、その「三本の矢」への期待がもたらした円安、株価上昇が持続し、個人や企業の消費マインドに若干の好転が見られる等、我が国を囲む経済状況としても、実感こそ希薄ではあります。景気の中長期的な好転への兆しを感じさせる話題がございました。しかしながら、我々製造業は、未だリーマンショック以前に回復したとは言えない受注状況や平成二十六年四月に控える消費税増税等、予断を許さない状況におかれています。そのような不安や不透明な状況を脱却すべく、各企業においては、自らの企業力やセールスポイントを再確認し、販路の拡

大と新規開拓を行っていく必要があります。販路の拡大や新規開拓には、「自分の企業のウリとは何なのか、誇れる技術とは何なのか」という企業としての命題への回答と、それを存分に表現できる魅力ある人間力が必要となります。私は、鉄工青研とはその二つの要素を獲得し、更に次代に繋げていくことができる機関であると考えております。その二つの要素の獲得を念頭に、より有益な青研活動を行うべく次の事業を年間のテーマとして掲げます。

一・人材育成事業「粋意気とした企業人(いきいきとしたきぎようじん)」

「いき」とは、一般的には身なりや振る舞いが洗練されていて、格好よいと感じられることや、人情に通じていること、遊び方を知っていることなどを表す我が国独自の美的観念です。本テーマの一字目に掲げた「粋」(本来は「すい」と読みます)は、その一般的な「いき」とは若干異なり、混じり気のない突き詰めたものを表します。職人の様に一つのことを突き詰めていくことで辿りつける境地です。二文字目の「意気」は先述の一般的に定着している「いき」の意味合いであり、人間的な魅力を表す境地です。我々は鉄工を生業とし、鉄工技術を職人の如く突き詰めていくプロフェッショナルです。一文字目の「粋」は正にそういった我々のルーツである鉄工へのより深い理解と魅力の再認識を表す言葉であると思います。そして二文字目の意気は、そのルーツである誇るべき鉄工を外部へ向けて自信を持って発信していくために、より魅力ある企業人としての成長を促す言葉です。上記二つの言葉をつなげて「粋意気とした企業人」というテーマを掲げまし

た。抽象的ではありますが、良い技術を持っていてもそれを誰かに伝える時には魅力あるプレゼンテーションが必要となります。また、「遊び方を知っていること」というのはユーモアと置き換えることができます。ルーツである鉄工の技術にユーモアを持って接するとは何ができるのか。そういったアプローチも本年度の中で実践していけたらと考えております。今年度の様々な事業においても本テーマを念頭に置いて実施していきます。当研究会でしか得られない成長を本業の方へ持ち帰って頂きたいと思いますが、一番大事なことはこの二文字を並べた時に、「いきいき」という元気のある様を表す言葉になる点です。お金も人も元気のあるところ、おもしろいことをやっている所へ集まります。全ての事業に対し、元氣一杯楽しむつもりで、当研究会が元気でユーモアに溢れた若手の会であるということ、内外を含めアピールしていきます。

二・渉外事業

平成二十五年年度から始まりました渉外事業ですが、本年度も引き続き当研究会を外部へ向けて積極的にアピールします。長岡は先端技術の粋を有する長岡技術科学大学とデザインの粋を有する長岡造形大学の二つの大学がある、ものづくりにとって恵まれた街です。脈々と続く長岡技術科学大学との交流と平成二十五年より始まりました長岡造形大学との交流をより深め、ものづくりへのきっかけや共同研究テーマの模索を継続していきます。また、教育機関以外にも積極的に当研究会をアピールし、他地域や関係各所との繋がりを模索していきます。

鉄工を担う次世代の子供達や、その保護

者の方へ鉄工をより理解して頂くために、ものづくり体験教室を今年も実施致します。内容に関しても視覚、触角を刺激し、よりわかりやすく見応えや体験甲斐を得られる様に工夫をして参ります。

三、地域貢献、交流事業

地域貢献事業として、OBの皆様や、趣旨に御賛同頂いた皆様、会員企業の多大なる御協力のもとに行われる「屑鉄集め」を継続実施致します。当事業の際には、御協力を宜しくお願い申し上げます。八月一日には、長岡まつり前夜祭神輿渡御に、諸先輩方より受け継ぐ伝統のオリジナル神輿と纏で参加し、周辺地域の皆様に「長岡に鉄工青研あり！」と一丸となつて存分にアピールして参ります。交流事業と致しましては、他団体交流事業の継続として、柏崎、小千谷の若手団体との交流を深め、情報交換や技術の向上へ努めていきます。

以上の事業を柱として、一年間当研究会の運営を行っていきます。折りに触れて御協力をお願いすることがあるうかと思いますが、その際はお力添えを賜れたら大変幸甚に存じます。これから当研究会は会員の減少が見込まれますが、当研究会には、当研究会でしか得られない視点や成長があります。当研究会の事業に参加し、地域に貢献し、自己を研鑽することで各企業へ持ち帰れることが必ずあります。会員の皆様には、その事を念頭において、積極的に楽しんで各事業に参加され何か一つでも持ち帰って頂きたいと存じます。

OBの皆様や、関係各所の皆様も当研究会を人材育成、地域交流、技術向上の

場として有効にご活用頂きたくお願い存じ上げます。当研究会は皆様のご期待に添える様、いきいきとして活動して参ります。それでは、一年間宜しくお願い申し上げます。



歴史と伝統のある
当会の会長として微
力ながら努力して行
こうと決心し一年、
普段の仕事では体験
できない経験をさせ
ていただきました。又、何より沢山の方
の支えの中で学ばせて頂いた一年でした。
近年、急速に進む産業構造の変化や少
子高齢化の影響は、青研にも同様に起き
ています。

時代に合った活動に変えていく事と、良い伝統を守り続けるために努力していく事は表裏ではなく一体であり、既存の想定を疑い、新たな課題を見つければ直し、検討することの必要性を感じ活動してきました。

青研会員の共通している事は、近い将来企業のトップ又は、幹部として会社を背負って行くという使命にあります。

平成二十六年度は永井会長の下、失敗を恐れずに、前例のない新しいことに、もっとチャレンジして頂き、その支えになれるよう努力いたします。

最後になりましたが、お世話になった関係機関の皆様、役員の皆様、積極的に

会に参加して頂いた会員の皆様に支えていただき深く感謝いたします。

本当にありがとうございます。

委員会事業報告

総務委員会

委員長代行 難波 博繁

今年度の総務委員会の事業は例年と同じく、四月の卒業式から始まり、八月の納涼会、十一月の忘年会、二月の臨時総会・合同新年会、そして四月の定期総会と、どの事業も大変多くの会員の皆様から参加して頂きました。本当にありがとうございました。

十月より訳あって、総務委員長を代行させて頂くこととなり、予定されていた「事業の遂行」と、「委員の団結」この二つを目標に委員のベクトルの向きを合わせようと努めてまいりました。

結果、「事業」においては委員ひとりひとりが、会への積極的な参画意識を持って行動して頂いたお陰で、無事総務の事業を滞りなく終えることができました。そして「団結」については今回の委員メンバーには総務経験者が一人しかおらず、総務の業務内容を一から皆と共に学ぶことができたことが団結へと繋がったと思っております。本当に総務委員の皆様には感謝しております。ありがとうございます。

最後に、会員の皆様の多大なるご協力、また激励のお陰を持ちまして、一年間活動することができました。本当にありが

とうございました。

◆卒業式

平成二十五年四月十三日 かも川別館にて卒業生十名の卒業式が厳かに行われました。

卒業生の皆様からは、それぞれ青研での思い出を熱く語って頂き、また後輩への温かいお言葉を頂きました。

引き続きおこなわれた懇親会では、卒業生との思い出話に花が咲き最後の楽しい時間を思い出に 卒業生を見送ることが出来ました。

参加者 五十七名 (宮下 玲子)



◆納涼会

八月二十三日「喜京屋」にて納涼会を行いました。

世間で騒がれている程、アベノミクス効果をなかなか肌で感じられないなかで

も多数の方に参加いただき、大変盛り上がりしました。

来年もまたこのような納涼会が開催されることを願っております。

参加者 二十七名 (小川 友幸)

◆忘年会

十一月二十九日に「いさり火」にて忘年会を行いました。

一年の締めくくりとして、多数の方から参加頂きまして多いに盛り上がりました。会員相互の親睦を深めることが出来、楽しいひと時でした。

参加者 四十名 (酒井 孝幸)

◆臨時総会・新年会

平成二十六年二月七日、長岡グランドホテルにて臨時総会・新年会を行いました。

臨時総会では次年度の会長、副会長、各役員の選出が行われ、承認されました。また、次年度会長より四十五周年準備委員会についての説明がありました。

中越鋳物青年研究会様との合同で行われた新年会は多数の御来賓、歴代会長より御出席いただき盛大に執り行われました。

本締めでは次年度の両会会長より次年度にむけての熱意あふれる抱負が語られ、新年会の締めと同時に次年度に向け会員の気持ちも引き締められました。

参加者 七十名 (市川 光)

◆第四十二回定期総会

平成二十六年四月十二日 かも川別館にて行います。

研修委員会

委員長 高木 繁樹

本年度の研修事業は、安藤会長が掲げた人材育成事業の所信にありました、「温故知新」・「相互扶助」・「デザイン」をテーマに、一年間の事業を行ってまいりました。

六月に和のおもてなしの心について学んだ「セミナー」、十月に武士道精神と相互扶助について拝聴した「講演会」、十一月に日本の最先端のものづくりと伝統のものづくりが共存する、北陸地方を訪問した「研修旅行」の、三つの事業を行いました。各事業の詳細につきましては、研修委員の事業担当者が記載しておりますので、御一読を宜しくお願い致します。

あらためましてお忙しい中、本年度の研修事業に御参加頂いた皆様、誠にありがとうございました。参加された方々から、参加して学ぶだけでなく、青研事業を盛り上げて成功させようという思いを強く受けました。各研修事業が盛り上がりをもせた事業になったのは、御参加された会員の皆様のおかげだと思います。青研会員同士の助け合いの心に、感謝しながらの一年間の事業運営でした。

最後に、このような私を委員長に御指名して頂いた安藤会長、一年間御指導を頂いた難波担当副会長、本場にありがとうございました。他に代えがたい経験をさせて頂きました。そして的確なサポートとアドバイスで支えて頂いた七里委員長はじめ、研修委員の皆様には大変お世話になりました。感謝申し上げます。

◆セミナー

平成二十五年六月七日、今年度の人材育成事業の題目の一つである「温故知新」より、日本の伝統文化である「礼儀」をピックアップし、日本が世界に誇る「和のおもてなし」について研修する事を目的とし、「かも川別館」にてセミナーを開催致しました。

講師には、株式会社観光文化研究所 井川今日子氏をお招きし、「おもてなし」について基本から応用まで、具体的な事例を交えながらお話し頂きました。セミナーは、開始から終始、質問が途切れない程で、礼儀に対する皆様の関心の高さが伺えました。

「おもてなし」は、その後のオリエンピック誘致のプレゼンで使われ、流行語



大賞にも選ばれましたが、「これで終わり」という明確なゴールのあるものではありません。今後も研鑽し、更に高い質の「おもてなし」を提供できるようにしていかなければならないものだという事を痛切に感じました。

最後に皆様からご協力を頂きまして、円滑に事業を進めることができました事に深く感謝申し上げます。有難うございました。

セミナー参加者 三十一名
懇親会参加者 二十七名

(七里 大樹・阿部 修平)

◆講演会

平成二十五年十月四日に長岡グランドホテルにて、講演会を行いました。

講師に、株式会社 BUSH・DO 代表取締役 新倉哲郎氏 (元プロキックボクサー) をお迎えして武士道精神をテーマにご講和いただきました。論語を通じて、プロ選手時代や起業されたとき、そして、現在の話しを交えて、日々の心がけや実践していることなどお話しいただきました。武士道には形がないとの話しがあり、私も人を納得させられる武士道を見つけられたらと思います。新倉先生は我々と年齢も近く、お話しを聴いていて良い刺激になりました。この講演で得たことをしっかりと理解して、実践できるようにしたいと思います。

最後に今回多くの会員の皆様にご参加いただきました。大変ありがとうございました。

参加者 講演会 二十二名
懇親会 二十二名

(小林 史幸・田原 裕巳)

◆研修旅行

本年度研修旅行は、今期のテーマである「温故知新」「デザイン」「相互扶助」を基に、『創業以来の技術・伝統を守り続ける企業』と『顧客ニーズに対応する為、新製品開発・技術革新を追求する企業』の企業理念が対局した企業様の見学と、日本の伝統文化・技法・デザインに触れることを目的とした、二日間の旅行でした。

今回訪問させていただいた企業様は、(株)不二越様、(株)能作様、直源醤油(株)様です。三社とも、根っことなる確かな技術・伝統を芯に、顧客のニーズに答える



為には何をしたら良いかを常に考え、成長しているものを感じました。特に(株)能作様では、売れなかったベルを風鈴に変えてベストヒットといったソフト面の「デザイン」、会社をどのように成長させていったかという、ハード面の「デザイン」両方の話が聴け、とても勉強になりました。兼六園、石川県立美術館では、古くから続く日本の伝統の技術・文化に触れることにより、伝統の重さというものを体感出来ました。

研修旅行を通じて「会員の相互扶助」の精神に基づき、会員の親睦を深めることができたと思います。

最後に、平日を含めた行程でご多忙の中、参加して頂いた皆様のご協力により、大変有意義な研修旅行となりましたことを心より深く感謝申し上げます。

参加者 二十一名

旅行日程

平成二十五年十一月一日～二日
(阿部 修平・田原 裕巳)

実行委員会

委員長 毛利 聡一

今年度は、元々は実行委員長をやる予定ではなかったのですが、様々な要因が重なり一昨年ぶりに実行委員長をさせて頂くことになりました。今回は前回とは異なり自分なりの準備期間が少ない事もあり、委員の選定は実行委員会のスペシャリストを数多く選出させて頂き、石田副委員長をはじめ委員の方に頼り切った一年でした。

その甲斐もあって、例年通り行ってい



平成二十五年四月二十七日土曜日にラウンド1新潟店にて卒業生追い出しコンペを行いました。今回はコンペ六名、表彰式七名全体で九名の卒業生に参加していただきました。当日はアクシデントにも巻き込まれましたが、ゴルフをしない方の参加も多く、参加者全員で盛り上がる事ができ、卒業生を盛大に送り出せたと思います。

◆卒業生追い出し

ラウンド1コンペ

「屑鉄集め及び贈呈式」や、「秋季ゴルフコンペ」以外にも今回初となる「ROUND1での追い出しコンペ」や、「スノーピークでの合同のリフレッシュイベント」も委員と会員の皆さんのおかげで大変素晴らしいものとなりました。また、今年は、リフレッシュイベントでは新潟市に行く道中の高速道路の事故渋滞による遅れや、屑鉄集めでの直前からのゲリラ豪雨など、イレギュラーな事が起こりましたが、その後のスケジュール調整をして、最終的には無事に事業を終了する事が出来たのも先ほど同様皆様の御協力があった事でした。

役員の皆様、委員の皆様、会員の皆様、ご協力本当にありがとうございました。



参加者 ラウンド1 二十五名

表彰式 二十七名

優勝者 渡辺 潤一郎 君

(石田 剛士・大竹 啓之)

◆合同リフレッシュイベント

平成二十五年、七月二十日(土)に、中越鋳物青年研究会との合同で三条市に有りますスノーピークで工場見学とバーベキューを内容にした、リフレッシュイベントを開催しました。

今年のリフレッシュイベント「童心に帰る」をテーマに鉄工、鋳物の両会員で普段の仕事の時間を忘れ親睦を深め大変盛り上がり楽しく過ごせてもらえたと思います。

また、参加された皆様には、仕事で忙しい中、参加して頂いたことを感謝致します。

本当にありがとうございました。

参加者 長岡鉄工青研 十六名
中越鋳物青研 七名

計 二十三名
(石田 剛士・大竹 啓之)



◆屑鉄集め

九月二日(月)クズの日に、ボランティア事業として、屑鉄集めを実施しました。屑鉄提供協力会社三十六社、青研参加者二十四名、トラック六台、五班に分かれ行いました。未だ芳しくない景気の最中にも拘らず七八九、九一六円を集めることが出来ました。これもひとえに、屑鉄集めに対するご理解、ご協力を賜った協力企業・団体及び、回収作業を行っていただいた青研会員の皆様のおかげです。開始直前にゲリラ豪雨に襲われたものの、事故・怪我等なく、無事、作業を完了できました。皆様、誠にありがとうございました。



集めた浄財を原資に、例年通り、十二月に福祉施設・児童養護施設へ訪問し、プレゼント贈呈を致しました。

(河田 一優)

◆秋季ゴルフコンペ

平成二十五年、十月十九日(土)長岡カントリークラブにて秋季ゴルフコンペを行いました。悪天候も予想された中、天候にも恵まれ白熱したラウンドとなりました。

OBの方も六名参加され、コンペ、表彰式と盛大に盛り上がることが出来ました。ありがとうございました。



参加者 ゴルフ 十七名

表彰式 二十五名

優勝者 酒井 孝幸 君

(小笠原昭範)

渉外委員会

委員長 山崎 宣明

今年の渉外委員会では四つの事業を行いました。若手研究者交流会では、長岡技術科学大学の専門職大学院 システム安全専攻 木村 哲也准教授をお迎えし、「安全技術セミナー」という演題でご講話をいただきました。製造業では、日々危険となり合わせの中で、当たり前のこと、ちょっとした油断が取り返しの付かない大事故に繋がると、改めて「危険」というものを考えさせられました。企業の持続的発展のために、企業全体で危険回避について徹底していく事が重要と感じました。また、国際安全規格から見えた労働安全のポイントなどのご指導も頂き、広く、深く「危険」について学びました。

ハイブ長岡プラント製作では、平成二十四年度からの継続事業で、今年度は追加工を行い完成、納品いたしました。打ち合わせを何度も行いながらデザインから製作までの道程は長く大変でしたが、委員の方のご協力の下で完成させることが出来ました。また、十月三日には贈呈式を執り行い、メディアを通じて青研のアピールも出来たと感じております。沢山の方々から良い評価を頂き、大変うれしく思っております。

長岡造形大学講演会では、学長の和田裕氏をお招きし、「経営資源としてのデザイン」という演題でご講話をいただきました。一言で「デザイン」といっても大変奥が深く、またとても広い大きなものだと感じました。「デザイン」とい

う行為の目的は問題解決及び問題発見にあることです。デザインにも、ものづくりの技術の歴史と同じように、歴史や時代の流れとともに常に変わっていて、退化しない。古き良き歴史があるからこそ今の作品があるという事です。デザインという学問と同じように、答えを見つめる力だけではなく、「自ら答えを創造する力」を養い、今後に生かして行きたいと思いました。

今年で八年続いている「ものづくり体験教室」では、長岡造形大学で開催された「デザインフェア2013」手作り長屋に出展してまいりました。青研では倣い彫刻機でのキーホルダー制作、クギの知恵の輪製作を行いました。例年のものづくり体験教室とは違い、年齢層の広い方々から体験していただきました。全体集計から見ても四十代の方々が三十二％を締め、一番多い年齢層でした。子供から大人まで、大変楽しんでもらえたと感じております。また、初めての出展で実績が無い為、不安などありましたが、渉外委員、会員の方々から協力頂き、大盛況として終えることが出来、大変感謝しております。

「相互扶助」「温故知新」「デザイン」という会長の三つのテーマに則り、四つの事業を無事に終えることが出来、渉外委員、会員の皆様には大変感謝しております。

◆安全技術セミナー

五月十七日に安全技術セミナーを行いました。
長岡技術科学大学の准教授、木村哲也氏を講師にお迎えし「《企業の持続的発



展のために《国際安全規格から見た労働安全のポイント》についてご指導いただきました。

製造業に携わる人たちが日々直面している危険と危険回避について、直接労働者だけでなく企業全体が安全（リスクマネジメント）についてお互いに意識し、向上しなくてはいけないと教えていただきました。

セミナーに参加していただきました当会会員二十七名全員で、資料、映像を見ながら時には顔色が変わり声を上げて事故は怖いものだと感じたり、時には真剣な面持ちで講師のお話を耳を傾けたりと、非常に濃厚な時間を過ごせたかと思われました。

その後の懇親会でも、木村氏への質問をされる方が絶えることなくまた会員同士が安全についての意見交換をされていた。

る姿が非常に印象的でした。

最後に、渉外委員会にとって最初の本事業が、皆様の積極的な協力、ご支援により無事につがななく進めることが出来ましたことに、御礼申し上げます。ありがとうございました。

セミナー 二十七名

懇親会 二十五名

(鳥越 太郎・萩野 浩)

◆経営資料としての デザイン講演会

平成二十五年六月二十八日にまちなかキャンパス長岡にて長岡造形大学学長和田裕様よりご教授をいただきました。今年度のテーマの一つでもある「デザインとは何か」について、車や建築物・建築家などの例を挙げ、解説いただきました。

私はこれまで、デザインを「形」としてだけ捉えていました。講話の中で印象的だったのは、「デザインは歴史や時代の流れとともに常に変わっていて、退化しない」ということです。古き良き歴史があるからこそ今の作品があり、そこにはひとつひとつ積み重ねられた功績が現在の「形」となっていることを知りました。そして、「デザイン」には、あれが

いい、これがいいなどという正解はなく「個人の感性」が大切であるということ、また「自らが創造する力」を持つこと、そしてそれを形にしていって「行為」が大切だということを学びました。

私たちの業界でもこれまでの経験を生かしながら、新しい価値を生み出していく力を身につけていかなければならないと感じています。

これからは、会員一同、自社での製品

加工などに対して、経営的視野から「デザイン」の在り方を考えなければならな

いでしょう。
最後に、今回は初めての長岡造形大学との交流でした。私自身、初めての事業だったため慣れない点等多かったと思いますが、委員長はじめ委員と会員皆様のご協力があつて講演会が円滑に進みましたことを感謝しております。ありがとうございました。

(加藤 芳夫)

◆ものづくり体験教室

九月二十一日と二十二日の二日間に渡り、長岡造形大学での「デザインフェア2013」におきまして、ものづくり体験教室を開催致しました。

当日は過ごしやすい気候に恵まれ、事故や怪我、トラブル等も無く円滑に事業



を行いました。そして、二日間を通して、非常に多くの方に御来場して頂き、「倣い彫刻機」と「釘の知恵の輪」を体験してもらえました。

子供達が真剣な眼差しで、彫刻機に向かい作業する姿や、釘を力一杯曲げる光景、キーホルダーが完成したときの笑顔は、当事業だから得られたものだと思います。

また、大人の方々も童心に戻って、夢中で知恵の輪に頭を悩ませて頑張っていました。

御来場して頂いた方々には、普段では経験出来ない体験をして頂けたと思います。

こうした成果を上げる事が出来たのも、会員の皆様からの御協力があつたからだと思っております。厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

来場者数 九月二十一日 六九人

九月二十二日 一一九人

当会員出席者数 一四人

(二日間)

合計 一八八人

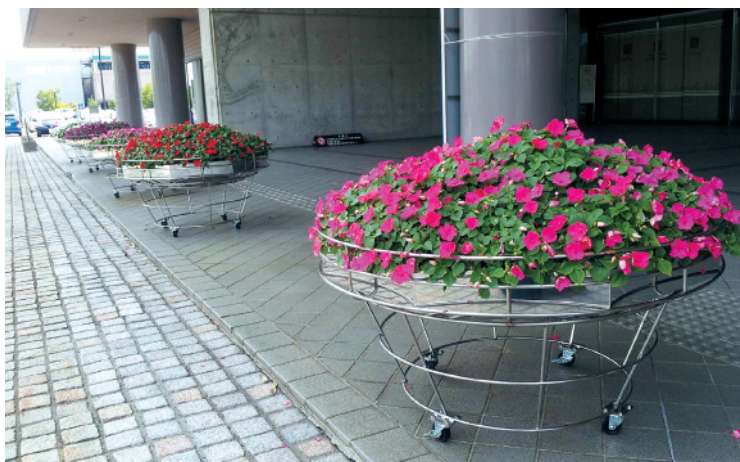
(中津山隆博)

◆ハイブ長岡

プラントー製作事業

ハイブ長岡様からのご依頼により、プラントー十台を製作し納入致しました。平成二十四年度ものづくり委員会からの継続事業と致しまして、本年度はプラントー用の皿及びキャスターの追加製作を行ないました。

打ち合わせを進めていく中で、デザインや機能について様々なご要望を頂きました。そして、そのことを実現すること



に難しさを感じておりました。しかし、それと同時に理想に近づけるために行動するという渉外委員会発足の最初の事業としまして、大変やりがいのあるものにもなりました。その中で、多くの方よりご支援を頂きましたことにより、予定日までに納入することができました。

平成二十五年十月三日に贈呈式を執り行ない事業を完了致しました。

ハイブ長岡様及び周辺の方々より喜びの声が聞けたことが、本事業最大の成果になったのではないかと感じております。最後に、参加者はもとより当研究会に限らず事業にご協力頂きました多くの皆さまに、心より感謝申し上げます。

参加者 渉外委員会

(池田 一雄)

まつり委員会

委員長 松田 勇介

本年度は長岡祭り前夜祭神輿渡御に参加し二十回目となる記念すべき年となりました。本年度は神輿へLEDによる装飾を施し、青研オリジナル神輿のアピールと、二十年の歴史を振り返る意味も込めてより多くの卒業生への神輿渡御参加へ力を入れました。

総勢約百二十名以上の参加があつた中、卒業生は約二十名参加していただきました。参加された卒業生の方々からも昔を思い出し血氣盛んに担いでいるように見受けられ、年々減少傾向にある会員数の中、来年度以降も参加人数確保の光明が見い出せたのではないかと思います。

大きなトラブルもなく無事終了できましたのは、会長をはじめとする三役の皆様や各委員会の参加者・卒業生の皆様など、神輿渡御にご参

加・ご助力くださいましたすべての方々のおかげと心より感謝いたしております。併せて、青研OB、関係者の皆様より、いまだ先行き不透明な経済状況にも関わらず例年と変わらぬご支援頂きましたこと、協賛金にて神輿渡御の運営・神輿の改造等行い盛大に渡御することが出来たことをこの場をお借りいたしまして御礼申し上げます。



池内克徳(株)大菱計器製作所
小川友幸(株)奉仕社
加納孝樹(株)長岡齒車製作所
河田一優(有)河田工機
小西統之(株)小西鍍金
佐藤大樹(株)佐藤板金
中條秀樹(株)中條製作所
前田信也(株)長岡自動車制御サービス
矢尾板隆(株)ヤオイタ
矢尾板政樹旭精機(株)
山口良和(株)ヤマグチ機械
(以上十一名)